

第4学年 総合的な学習の時間学習指導案



令和4年11月16日(水) 5校時

4年1組 33名

授業者 崎浜智恵

共同研究者 照屋麻衣子 相澤航太

1 小単元名「ウージ・エコニコ・フェスティバル」～行動は足もとから 前田小4年生100人の一歩～

2 小単元の目標

環境問題の解決に向けたサトウキビからのアプローチを探求する協働的活動を通して、環境問題の解決に身近な植物が活用できることを理解し、持続可能な視点からよりよくしようと考え表現するとともに、自分の可能性や協働的に取り組むことの意義を自覚することができる。

3 小単元について

(1) 教材観

本教材は、学習指導要領の第1の目標を踏まえ、児童の思考の流れを予想し、地域や学校の特色に応じた素材を選び、地域人材を活用して、さらに他教科との関連を図りながら設定した単元である。

前単元までに、児童は「自分たちで育てているサトウキビはエコである。」「地球規模で見ると、環境問題は予想以上に多く深刻で、なんとかしたい。」という思いを持っている。エコであるサトウキビを広めることは環境問題解決の一助となるのではないかと、児童なりにモノとコトをつないでいる。それを受けて、本単元では、自分たちの育てているサトウキビを使って、環境問題の解決に向けて何ができるかを模索し、自分たちなりに考えたことに挑戦する。地球規模の環境問題に対して、まずは自分の行動について考え、問題の改善に向けて自分にできることを改めて問い直させることができる。これにより、他教科でも学ぶ「環境」について、さらに視野を広げ、自分たちの生活との関わりに目が向くことが考えられる。また、互いの取り組みをよりよいものにするために企画会議を開き、批判的思考を持って意見を述べ合う。それらを通して、思考を整理したり、より深く理解したりすると考える。さらに、小学生である自分たちにもできることがあるということに気づくことで、今後も自分たちにできることを探し、主体的に活動していこうという態度を育てられる単元である。環境問題を自分事として捉え、協働しながら実践し、表現する学習活動を通して、研究テーマである「つながりかわりながら深めた考えを伝えられる児童の育成」に迫ることができると考え、本教材を設定した。

(2) 児童観

本学級の児童は、社会科の『ゴミはどこへ』の単元では4Rの有効性を、『水はどこから』の単元においては、水資源を大切にしていこうと考えてきた。しかし、ゴミのリサイクルや水の節約など、環境に対して目を向けることができるようになってきたが、自分事としてとらえ行動する力が不十分であった。

次の単元である『自然災害にそなえるまちづくり』では、災害が地球温暖化と関わっていることを発見し、そこから環境問題について詳しくなりたいという思いを抱いていた。また、総合的な学習の時間には、グリーンハイツ自治会の協力を得ながら、実際に畑の手入れやさとうきびの植え付けを体験し、地域の方々の協力やさとうきび農家の方々の努力に思いを馳せた。そこで、さとうきびについて詳しく知る必要があるという課題を見つけ、興味のあるテーマごとにグループ分けをし、『サトウキビマスターになろう』と銘打って、サトウキビについて調べた。調べたり、伝え合ったりしている中でサトウキ

ビの歴史や品種改良、使われ方などに詳しくなり、「サトウキビは捨てる場所がない。」「さとうきびは、環境にいい（エコだ）！」と言い始めた。環境問題の対応策の一つとしてのサトウキビの価値に気づいていた。社会科を通して生まれた「環境問題について詳しくなりたい」という思いと、総合的な学習の時間にでた「エコって何？」という疑問が掛け合わさって、世界で起きている環境問題を調べることになった。

調べ学習と並行して以下のことを行う中で、振り返りから児童が思いを深めていることが見てとれた。「SDGs入門」の中では、MDGsを知ることやセヴァンさんの話を聞くことで、「他の国の人々が今大変な状況にあるのに、自分は欲深い。（中略）SDGsが達成できずにいると地球は滅びてしまう。このために一番大切なのは17番のパートナーシップだ。」など、今度は自分たちが頑張る番だという思いを強く持ち始めた。また、JOCAや沖縄気象台の講話を受けて、世界で行われている環境問題に対する取り組みや、地球温暖化に立ち向かうにはCO2削減を目指すことが大事であることを知った。「ぼくは話を聞きながら、どうして二酸化炭素は増えたのだろう、どうやったら二酸化炭素を減らせるのだろうと考えた。（中略）地球温暖化についていろんな人に知らせたい、教えたいと思った。」と、自分なりに何をすれば良いのかを考え始めていた。また、環境問題を調べ、全クラスで共有する中で、「こんなに災害があったのに、地球がこんなに大丈夫なことにビックリしました。（中略）地球が安全になる方法を考えて地球を安全にしたい。」「（中略）何で人口爆発が環境問題につながるのか、なんで防災が環境問題につながるのか考えています。」などの振り返りが見られ、子ども達は「なんで？なんで？」と追求する様子が見られた。様々な環境問題があることを知って、その原因は人間が作り出しているという不安や怒りを、「環境問題を減らそうと言っているけれど、増やしているのは人間だ！」という標語に表していた。

その思いの中、環境問題の解決に取り組んでいる株式会社トリムの講話を受け、学習が苦手な児童が「ぼくはちきゅうをあぶないとおもったけどたいさくしてるひとはいっぱいいるのでぼくはいっぱいさいくろしたいとおもいました。あんしんしました。」と書いていた。また、「実際に自分も家で実験したいと思いました。」などと、具体的に動こうとする他児童の姿も見られた。既に環境問題に取り組んでいる人々の存在を知ること、自分も何かしようと突き動かされていることが感じ取れた。そこで、自分なりに具体的にどう動くかを「マイ・エコ宣言」として表した。互いにエコ宣言を共有する中で、みんな同じ思いを抱いていることに気づき、みんなと一緒にできることはないかという思いを抱き、「沖縄から世界への挑戦！私たちが持続可能な社会へのかけはしを！！行動は足もとから！」という標語を掲げていた。

これまでの2つの単元の学習を通して、児童は、「さとうきびはすごい！」という思いや「環境問題は不安だが、どうにかしようと頑張る人がいる。自分たちも何かできないか」と考えるようになっていた。サトウキビ畑が雑草に覆われて危機に陥ったときは、サトウキビ会社を設立し、毎朝草抜きに行くようになるほど、サトウキビを大切にしたいという思いも強くなっていった。本単元では、その思考の流れに乗り、子ども達はその延長線上で試行錯誤しながら表現する（発信する）時間とすることで、自分の可能性や協働することの意義を自覚し、社会に参画しようとする児童の姿が見られることを期待したい。

（3）指導観

1つ目の単元では、サトウキビを植え付け、サトウキビについて調べ、まとめる活動を行った。植え付けでは、地域の人々とつながりを持ち、サトウキビの調べ学習では、家庭や地域と関わり、まとめる際には国語科と繋いだ。調べる際には、グループで分担したり、話し合ったりする中で、協働する良さや難しさを感じていた。調べたことは、国語の『新聞を作ろう』の単元でまとめることで、新聞作りの観点となる「端的な表現」と「相手意識をもつ」ことを大切にしながら伝えることができるように意識して取り組ませた。また、ポスターセッションを行うことで、聞き手の質問や感想を得ながら、「調べた

知識」を「より活用できる知識」へと高めさせた。同時に、SDGs について腑に落ちていない児童への理解を進めることと、児童全体の視点を地球規模に広げるために、「SDGs 入門」と銘打った授業も行った。それらがリンクし合い、地球上で起きている環境問題について知りたいという新たな課題が見つかった。

そこで、環境問題をより身近に感じたり、自身が調べたことをさらに深めたりするために、2つ目の単元では各分野の専門家をゲストティーチャーとして招きながら、視点を地球規模に広げ、地球の環境問題について考えさせた。また、先行で学習していた社会科の『災害にそなえるまちづくり』において、地球温暖化と災害と大きく関係していることに気づいていたので、社会科と関連させながら学習を進めた。JOCA 講話では「環境問題に対する他国での取り組み」について、気象台の方からは、「地球温暖化の最新の知見」についての講話を、また前田自治会長から「前田の災害に対する考え方」について、株式会社トリムからは「環境問題に対する企業としての取り組み」についての講話をいただいた。講話を通して、児童自身が環境問題についての視野を広げ、より自分事として考えるきっかけとなった。

地球を環境問題から救いたいという同じ思いを共有し、取り組みの後押しになればと考え、たくさんの環境問題を知って思ったことや、それに対してどのような視点で取り組んでいきたいかをクラスで一つの標語に表した。また、自分なりに環境を守るために取り組みたいことをその根拠も含めて「マイ・エコ宣言」として表すことで、実際に行動を起こしやすくなった。

本単元では、5月からサトウキビについて調べたことや実際に栽培していることから、自分たちの身近にあるサトウキビが環境に良い影響を与えるものであることに気づいたことで、それを「生かしたい。」「広めたい。」という児童の発言から、「サトウキビでできること」について考え、実行していく。児童自身が考えたことを実際に実行できるようにするために、企画会議を行い、議論を重ねることで、批判的に考える力を身につけさせたい。また、「自分の育てたものを使って、課題と向き合うことができる」という経験をさせることで、自分でも何かできる（自分の可能性）ということを実感させたい。実際に行動を起こし、それを発信していくことを通して、自分自身の可能性に気づき、自分で考えて行動することの喜びを感じ、進んで参加する態度をより高めたいと考える。

これらの学習を通して、前田小学校4年生100人で、持続可能な社会に向けての新たな一步を踏み出し、自分の成長を自覚しながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てたい。

(4) ESD との関連

◎学習を通して主に育てたい ESD の能力・態度

《②批判的に考える力》

・他者の考えや情報に対して互いの意見をよりよくしたいという思いのもと、「本当にそれでいいのか」「他に方法はないのか」という視点で考えさせることで、自分なりによく考え、積極的・建設的に自分や相手の考えをより良いものに再考築することができるであろう。

《⑧進んで参加する態度》

・児童の思考の流れをつなぎ、自分たちで考えたことに取り組み、試行錯誤しながら仲間と共に追求していくことで、自分の可能性や協働する良さを知り、自己承認欲求、ひいては自己実現欲求に基づく主体的な態度が育成されるであろう。

4 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
①サトウキビは、すべての部分を使うことができ、環境問題の解決の一助となることを理解し	①自分の関心から課題を設定し、解決方法を考えて追求することができる。	①自分の良さや自分にできることに気づくことができる。 ②自分と異なる意見や考えがあ

<p>ている。</p> <p>②サトウキビの良さを伝えるために、自分の伝えたいことに応じた方法で、情報を得ることができる。</p> <p>③環境と自分たちの生活がつながっていることの理解は、環境問題に対するサトウキビからのアプローチが探求的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>②必要な情報を多様な方法で収集し、目的に応じて蓄積している。</p> <p>③事象を比較したり関連付けたりして、確かな理由や根拠を持つことができる。</p> <p>④相手に応じてわかりやすくまとめ、表現することができる。</p> <p>⑤学習したことを振り返り、生活に生かそうとすることができる。</p>	<p>ることに気づき、相手の立場を理解することができる。</p> <p>③「サトウキビの良さ」を広げるために、目的意識を持って意欲的に取り組むことができる。</p> <p>④「サトウキビの良さ」を広げるために、友達と力を合わせて取り組むことができる。</p> <p>⑤自分と地域とのつながりに気づき、地域の活動に参加しようとするすることができる。</p>
---	---	---

5 小単元の指導計画と評価計画（全28時間）

時間	◎学習の主なねらい・主な学習活動	【評価規準】
第1部 環境問題に対するサトウキビからのアプローチを考える～視点は地球規模で行動は足もとから～		
1	◎環境問題とサトウキビをつながけながらできることを考えることができる。	<p>【知識・技能】</p> <p>①サトウキビは、すべての部分を使うことができ、環境問題の解決の一助となることを理解している。</p> <p>【主体的に取り組む態度】</p> <p>③「サトウキビの良さ」を広げるために、目的意識を持って意欲的に取り組むことができる。</p>
2 3 4 5	◎沖縄県農業研究センターでさとうきびの最新の知見を得ることができる。	<p>【知識・技能】</p> <p>②課題解決に必要な知識・技能を身につけることができる。</p>
6	◎さとうきびでできることを再考することができる。 ・最新の知見を受けて、変更点、追加点などをチームで話し合う。 ・どのようにそれを伝えるか考える。	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>①自分の関心から課題を設定し、解決方法を考えて追求することができる。</p>
第2部 どのように伝え、どのように進めるか考えよう。		
7	◎祭りへ向けて、取り組みの計画立てることができる。 ・祭りまでにどんな取り組みをすればいいか考える。 ・取り組みを考えさせる。 ・順番を決める。	<p>【主体的に取り組む態度】</p> <p>②「サトウキビの良さ」を広げるために、目的意識を持って意欲的に取り組むことができる。</p>
8	◎提案用の企画書を作ることで、自分のやりたいことをより具体化したり、整理したりする。 ・チームで意見を出し合いながら、内容や工夫などを具体的に書く。	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>③問題状況における事実や関係を、事象を比較したり分類したり、数量などで客観的に比較したりして、自分の考えを再構築することができる。</p>
9	◎前田自治会祭り実行委員の話聞くことで、祭りまでの具体的な取り組みや、祭りにかける思いを知る。 ・実行委員に質問したり感想を述べたりしながら、自分なりにそれらについて振り返る。	<p>【知識・技能】</p> <p>②サトウキビの良さを伝えるために、自分の伝えたいことに応じた方法で、情報を得ることができる。</p>
10	◎祭りで大切にしたいことを、思考ツールを使ってランキング付けをする。 ・自分たちで取り組みについて考えたことや、実行委員の方のお話から大事だと思った点を短冊に箇条書きにし、ランキングづけをする。 (ロイロの共有ノートでダイヤモンドランキング活用)	<p>【主体的に取り組む態度】</p> <p>④「サトウキビの良さ」を広げるために、友達と力を合わせて取り組むことができる。</p>
11 12 13	◎実験を行い、企画書を再考をすることで、よりよい企画ができるようにする。 ・祭りまでの取り組み予定を見直す。 ・自分たちの企画書を見直す。	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>③事象を比較したり関連付けたりして、確かな理由や根拠を持つことができる。</p>

14 15	・他のチームの企画書を読んで、SDGsシートに記入する。	*朝の時間等で行う。
16 17 18	◎グループごとに互いの企画を発表し合い、よい点を認め合ったり、改善点についてアドバイスしたりすることができる。(3) ・PMIシートを活用して、多面的に意見が言えるようにする。【本時】 (ロイロの共有ノート活用)	【思考・判断・表現】 ④相手に応じてわかりやすくまとめ、表現することができる。
19	◎会議を受けて、仲間からもらったアドバイスをもとに、改善点を整理し、試行錯誤を重ねる。	【思考・判断・表現】 ③事象を比較したり関連付けたりして、確かな理由や根拠を持つことができる。
20	◎きび倒しを通して、地域の人と交流を図りながら、収穫の喜びを感じることができる。(2) ・グリーンハイツ自治会の方ときび倒しをする。	【主体的に取り組む態度】 ⑤自分と地域とのつながりに気づき、地域の活動に参加しようとするすることができる。
21	◎黒糖作りを通して、地域の人と交流を図りながら、サトウキビを使った製品作りの材料を得る。(2) ・黒糖作りの名人から、黒糖の作り方を学ぶ。 ・材料となる物を収集する。	【主体的に取り組む態度】 ④「サトウキビの良さ」を広げるために、友達と力を合わせて取り組むことができる。
22 23 24 25 26	◎祭りに向けて準備し、サトウキビのよさがうまく伝えられるように練り直す。(4) ・相手意識を持ち、試行錯誤しながら、伝える内容をよりよいものにしていく。	【思考・判断・表現】 ④相手に応じてわかりやすくまとめ、表現することができる。 【主体的に取り組む態度】 ⑤自分と地域とのつながりに気づき、地域の活動に参加しようとするすることができる。
27 28 29 30	◎祭りを実施して、自分達で深めた方法でサトウキビの良さを伝える。(3) ・祭りを通して、サトウキビのよさを伝える。 ・祭りの片付けを行う。	【主体的に取り組む態度】 ①自分の良さや自分にできることに気づくことができる。
第3部 1年間の取り組みを北海道のお友達に発信しよう。		
31	◎サトウキビ祭りに向けての過程及び当日の取り組み内容について、振り返りをする事で、今後の活動につなげる。 ・各チームの反省を出し合い、意見を述べ合い、振り返りシートにまとめる。	【主体的に取り組む態度】 ⑤自分と地域とのつながりに気づき、地域の活動に参加しようとするすることができる。
32 33 34	◎1年間の取り組みについて北海道のお友達に発信する準備をすることで、自分たちの取り組みを多面的多角的に価値付ける。(3) ・どのように発信するかをチームで話し合いながら、よりよい発信に向けて取り組む。	【思考・判断・表現】 ④相手に応じてわかりやすくまとめ、表現することができる。
35 36	◎1年間の取り組みについて、北海道のお友達に発信することで、違う土地に住むお友達の考えや感覚を感じ取り、自分自身の視野や感覚を広げることができる。	【主体的に取り組む態度】 ②自分と異なる意見や考えがあることに気づき、相手の立場を理解することができる。
37 38	◎活動を振り返り、新たな問いを立てる。 ・自分の生活、探求してみたいこと、探求の仕方など、自分なりに振り返り、これから意識したいことを発表する。	【思考・判断・表現】 ⑤学習したことを振り返り、生活に生かそうとすることができる。

5 本時の学習 (1 1/2 8時)

(1) 本時の目標

◎祭りでサトウキビを使った持続可能な社会に繋がる取り組みについて伝えられるように、グループごとに互いの企画を発表し合い、よい点を認め合ったり、改善点についてアドバイスしたりすることができる。

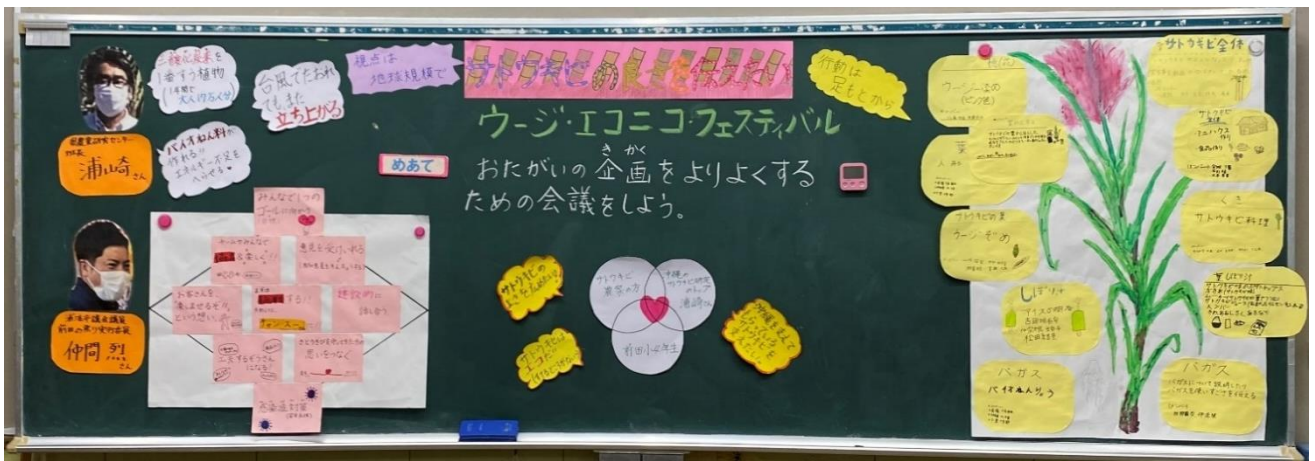
(2) 本時の授業の工夫

- ・互いに前もって企画書を読み合うことで、よりよい意見交換ができるようにする。
- ・SDGsシート (PMIシート) を使うことで、多面的な観点から対象を見ることができるようになる。
- ・浦崎さんからのビデオレターを見せることで、これからの活動への意欲を高める。

(3) 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点	【評価項目】
導入 (1分)	1 本時の学習のめあてを確認する。 おたがいの企画を、よりよいものにするための会議を開こう。		
展開 (37分)	2 企画会議をしよう。 (1) 企画の提案 (2) 意見交換 *時間内に伝えられなかった意見は、ロイロノート(共有ノート)で送る。 ○「除菌剤作り」(葉の利用) ○「お菓子作り」(絞り汁の利用) ○「CM作り」(広告)	<ul style="list-style-type: none"> ・企画者の立場で考え、互いに思いやりながら話しを進めているか教師が意識する。 ・互いに前もって企画書を読み合うことで、よりよい意見交換ができるようにする。 ・SDGsシート(PMIシート)を使うことで、多面的な観点から対象を見ることができるようになる。 ・よい点や改善点等をロイロノート(共有ノート)で送信し合うことで、企画の練り直しに生かせるようにする。 	【思考・判断・表現】 ④相手に応じてわかりやすくまとめ、表現することができる。
まとめ (7分)	3 本時の活動の振り返りをする。 4 これからの活動への意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換を受けて、今後の活動を振り返らせる。 ・サトウキビ博士である浦崎さんからのビデオレターを見せ、今後の活動に意欲をもたせる。 	

(4) 板書計画



(5) 使用した思考ツール (Ipadにて)

じょさんざい作り()

S	D	GS
<p>S さすが!すごい!知った!</p> <p>色もいい匂いも消臭もできていい匂いも... 素晴らしいです。なかなかなら石二島だからです。</p> <p>健康にやくだつ。</p> <p>SDGsを守れるのがいい</p> <p>SDGsを...</p> <p>一台二台だからいい健康に役立つからいい</p>	<p>D どうだろうか?大丈夫かな?</p> <p>家に使ったことある? サトウキビ... 甘いからです。</p> <p>さとうきびの葉は、ほてい!</p> <p>SDGsの何番を守っているんで?</p> <p>月経の痛さってどこに売っているのか? 何故なら綺麗好きなひとにあげる... さとうきびはいいけども... 月経の痛さってどこに売っているのか? 何故なら綺麗好きなひとにあげる... さとうきびはいいけども... 月経の痛さってどこに売っているのか? 何故なら綺麗好きなひとにあげる... さとうきびはいいけども...</p> <p>サトウキビにつける消毒はどのくらい?</p> <p>アルコールはどれだけ使う?</p>	<p>GS ギフト、グレードアップ</p> <p>サトウキビで作った消毒を持ちはらせたほうがいいと思う!</p> <p>綺麗で作り方を聞いた方がいいと思う!</p> <p>きれいなすきの人以外にも、さとうきびの葉はいいと思う!</p> <p>アルコールに薬を1口つけておいた後つけた薬って何かな? 作ったらいとおもいます。なぜなら、そうしたらもったりサイクリルになるからです。</p> <p>サトウキビの葉は... きれいなすきの人以外にも、さとうきびの葉はいいと思う!</p> <p>サトウキビの葉は... きれいなすきの人以外にも、さとうきびの葉はいいと思う!</p> <p>サトウキビの葉は... きれいなすきの人以外にも、さとうきびの葉はいいと思う!</p>

名前○○○○